

2/23(木)SGH シンポジウムでご講演いただく講師の先生、および演題が決定いたしました。

開沼 博

(かいぬま ひろし) さん です。



プロフィール

1984 年福島県いわき市生まれ。東京大学文学部卒。

同大学院学際情報学府修士課程修了。現在、同博士

課程在籍。専攻は社会学。著書に『はじめての福島学』(イースト・プレス)『漂白される社会』(ダイヤモンド社)『フクシマの正義「日本の変わらなさ」との闘い』(幻冬舎)『「フクシマ」論 原子カムラはなぜ生まれたのか』(青土社)『地方の論理 フクシマから考える日本の未来』(同、佐藤栄佐久氏との共著)『「原発避難」論 避難の実像からセカンドタウン、故郷再生まで』(明石書店、編著)など。学術誌の他「文藝春秋」「AERA」などの媒体にルポ・評論・書評などを執筆。

立命館大学衣笠総合研究機構准教授(2016-)。東日本国際大学客員教授(2016-)。福島大学客員研究員(2016-)。Yahoo!基金評議委員(2015-)。楡葉町放射線健康管理委員会副委員長(2015-)。経済産業省資源エネルギー庁総合資源エネルギー調査会原子力小委員会委員(2014-)。これまでに、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員(2012-2016)、早稲田大学文化構想学部非常勤講師(2014-2015)、読売新聞読書委員(2013-2014)、復興庁東日本大震災生活復興プロジェクト委員(2013-2014)、福島原発事故独立検証委員会(民間事故調)ワーキンググループメンバー(2011-2012)等を歴任。

SGH シンポジウム特別講演 : 2月23日(木) 11:35-12:35

演題 「社会のグローバル化と教育の未来可能性」

本校 アクティブラーニング・ラボ(ALL)教室

今後ますますグローバル化していく社会のなかであって、私たちが生きている社会とはどのようなものであり、そのような社会を生きていく生徒たちに教育としてどのようなことが期待され、そして大人たちはどうすべきなのか。また、貧困をはじめ困難な現実を直視したときに立ち上がってくる「当事者性」の涵養についてどのように考えればいいのか。幅広くお話いただく予定です。